



特別保育

牛 島 義 友

特別保育という言葉は他に例のない特別な言葉である。特殊保育というのも何だか特殊部落的な印象を与えるので、この不幸な子供たちに特等席を与えるようなつもりで特別保育と吾々の研究所では呼びならわしている。精神薄弱幼児のための保育である。世界にも余り例のないものであるからこの意味でも特別保育である。

昭和二十三年に私が愛育研究所の教養部長を引受けた時に、津守君をそのかしてこの仕事を復興した。戦争前に三木君が研究的に数名の精薄幼児を集めて保育していた仕事、戦争のため中断していたのを復興したのである。しかしこの時は研究所最悪の時期で一文の予算も

なく、教養部の所員たちは非常な覚悟で裸になつて研究所に奉仕する決意をした時である。どうせ生活を犠牲にして奉仕するならば、一番気の毒な人のためになりたいと思つてこの仕事を始めたのである。

特殊教育の経験もなく、唯熱意のみで始めたので保育そのものにも困難を感じ混乱もした。特別幼児であるだけででんでに勝手な行動をして、否、動いてくれる方はまだましで、動かすじつと佇つている子供もいて、保育らしい保育にならなかつた。それでも全然ものを言わなかつた子供が、数ヶ月でものを言い始めたりすると保育者の方も感激してしまつたものである。

保育を熱心にやるほど保育室がほしくなつた。場所がないために、部長室を保育に提供したこともある。皇太后様が研究所においでなされた時にはこの部屋での保育をみていたゞき、幼児たちに親しく慰めの御言葉をいいたゞいた。

その後小さな特別保育室が建てられ、翌々年には更に一部屋建増し、今では二十数名の不幸な子供たちが、ここでは幸福に生活している保育も段々板についてきて、立派な保育効果をあげている。精薄児の教育可能を論ず

るのは抽象論であり、ここではIQ、四十位の子供も立派に教育効果をあげている。

ところがこの幼児たちが小学校の特別学級に進学しようとして問題が起つている。特別学級ではIQ五十以下の子供は入学を拒否される傾向がある。教育効果の多い書を選びたいと言う考えからであろうが、この態度はどんなものであるか、教育効果だけから言えば正常児の方が効果の絶対量が多いし、更に優秀児を集めれば教師は遊んでいても子供はどんどん伸びてくれる。特殊教育の精神からすれば学級から見棄てられた子供に、如何に骨が折れ効果が薄くとも指導教育してやるのが正しいのでなかるか。五十以下を拒否する態度は是非考え直してほしい。そうでなければ私達は五十以下だけをとつて五十以上は拒否しようかと思つている。

遅々としてではあるが伸びてゆく幼児たちを見ていると、どうしても上のクラスがほしくなる。特に小学校の特別学級にも行けない子供たちがふえてくると、何とかしてもう一つ、二つのクラスが作りたい。広いと思つていた敷地も段々狭くなつてきた。将来について別に悲感はないが、不幸な子供たちの幸福のためにもつと

援助していただきたい。

又特別保育を受けることもできない不幸な子供が日本中に大勢いるわけであるから、各地で特別保育を開設してほしい。吾々の経験では金が無くとも誠意と子供への愛情があれば必ず成功するとの確信がある。